

スチール缶における3R推進自主行動計画フォローアップ結果

スチール缶リサイクル協会の概要

- ・名称：スチール缶リサイクル協会
- ・英文名：JAPAN STEEL CAN RECYCLING ASSOCIATION
- ・設立目的：使用済みスチール缶の散乱防止・環境美化推進及び3R推進のための調査研究・指導・普及啓発広報活動を行うことで、社会に貢献すること。
- ・設立：1973年4月（昭和48年4月）
- ・所在地：104-0061 東京都中央区銀座7-16-3 日鉄木挽ビル1階
TEL：03-5550-9431 FAX：03-5550-9435
URL：<http://www.steelcan.jp>
- ・役員：理事長：内田 耕造（新日本製鐵株式会社代表取締役副社長）
副理事長：林 伸行（東洋製罐株式会社常務執行役員、資材・環境本部本部長）
副理事長：山口 勇（大和製罐株式会社代表取締役副社長）
専務理事：酒巻 弘三（専任）
- ・会員：スチール缶の鋼鋳・容器製造及び流通に係る企業12社で構成
鉄鋼メーカー（3社）：新日本製鐵(株)、JFEスチール(株)、東洋鋼鋳(株)
製缶メーカー（3社）：東洋製罐(株)、大和製罐(株)、北海製罐(株)
取扱商社（6社）：三井物産(株)、伊藤忠丸紅鉄鋼(株)、(株)メタルワン、
JFE商事(株)、日鐵商事(株)、幸商事(株)

スチール缶リサイクル協会は、1973年より自治体・消費者団体・有識者・事業者と共に、スチール缶の散乱防止・再資源化に取り組んできています。

- ・鉄鋼メーカーでのスチール缶スクラップ受け入れ体制構築に協力
- ・自治体での分別収集体制構築に協力・支援
- ・自治体の地域住民へのリサイクル推進普及啓発へ協力
- ・散乱防止・リサイクル推進に資する消費者・自治体・有識者参画の事業者研究会の開催
- ・スチール缶スクラップの有償もしくは無償により引き取り保証のあるボランティアプランの継続
- ・自治体・鉄鋼メーカー等の協力を得て、自主的にスチール缶のリサイクル状況調査の実施・公表

スチール缶業界における自主的取り組み目標と2009年度フォローアップ結果>

基準年度：2004年度実績

目標年度：2010年度

リデュース目標：新たな技術開発を行い、1缶あたりの平均重量で2%の軽量化を目指す。

<フォローアップ結果>

2009年度は、主要4缶型の缶型構成変化の影響を除いた1缶あたりの平均重量で**3.41% (1.21g/缶)の軽量化を実現、前倒して達成。**

リサイクル目標： スチール缶のリサイクル率85%以上を維持。

より潰しやすい容器の開発を目指す。

集団回収を研究し、その普及啓発を図る。

<フォローアップ結果>

- ・ 2009年度のスチール缶リサイクル率は、**89.1%と目標達成。**
- ・ 軽量化推進により、より潰し易くした。
- ・ 5年間の集団回収調査結果を集大成し、地域コミュニティ活性化・社会的コスト削減・環境意識向上に寄与する冊子「**集団回収マニュアル**」を発刊。

消費者・自治体・事業者の連携に資するスチール缶業界の2009年度取り組み内容

スチール缶の高付加価値再資源化のためのシュレッダー状況実態調査を実施

自治体と連携し、スチール缶を主とした分別収集状況・集団回収状況調査を実施

地域での散乱ごみ清掃活動への協力とポイ捨て防止・再資源化推進啓発を実施

環境教育推進・再資源化推進に寄与する支援活動を継続実施

- ・ 実践的環境教育として集団回収を実施している学校への環境教育推進を表彰・支援
- ・ 地域でのコミュニティ活性化・社会的コスト削減・環境意識向上に寄与する地域団体におけるスチール缶の集団回収を表彰・支援

小中高生の環境意識の向上に資するポスターコンクールを実施、表彰。支援

製鉄所での環境活動を理解していただくための「製鉄所見学会」を実施

WFP国連世界食糧計画を通じ、世界の貧しい子ども達の学校給食への支援を実施

環境意識向上に資する地域での環境展への出展及び協力

環境意識の向上及びリサイクル推進に資するため、種々啓発用冊子の発行

リサイクル推進に資する出前授業・受け入れ授業・講演等実施

地域でのまち美化推進に資する「まち美化研究会」を開催

主体間連携に資する容器包装リサイクル八団体共同による種々の取り組みを実施

- ・ フォーラム・セミナー等の開催
- ・ 消費者リーダーと事業者による相互理解に資する「3Rリーダー交流会」の開催
- ・ 環境意識向上に資する一般消費者向けACジャパン支援広告を実施

1. リデュース目標とフォローアップ結果について

2006年6月、「スチール缶軽量化推進委員会」を日本製缶協会内に立ち上げ、リデュース（軽量化）を推進。

スチール缶軽量化推進委員会の事前調査で、スチール缶の総生産数中主要な缶型4種で、スチール缶生産の85%以上を占めていることが判明したことより。研究開発を集中すべく、主要4缶型をリデュース推進の対象とした。

- ・対象缶型：主要4缶型

202径	200ml、250ml
211径	280ml、350ml

- ・4缶型生産数/総生産数（4缶型カバー率）

2004年度（基準年度）	85.8%
2006年度（推進初年度）	85.6%
2009年度（推進4年度）	85.4%

- ・推進対象企業：8社（上記対象缶型を生産する全ての企業）
- ・軽量化指標：4缶型の缶型構成変化の影響を除いた1缶あたり平均重量
- ・集計方法：各企業の生産数・重量を、第三者機関にてデータ集計。

フォローアップ結果

4缶型合計の1缶あたりの単純平均重量は、**4.14%（1.47g/缶）**の軽量化でした。加重平均と単純平均との差は缶型構成比の変化によるもので、軽量な小容量缶へ移行していることなどを示している。

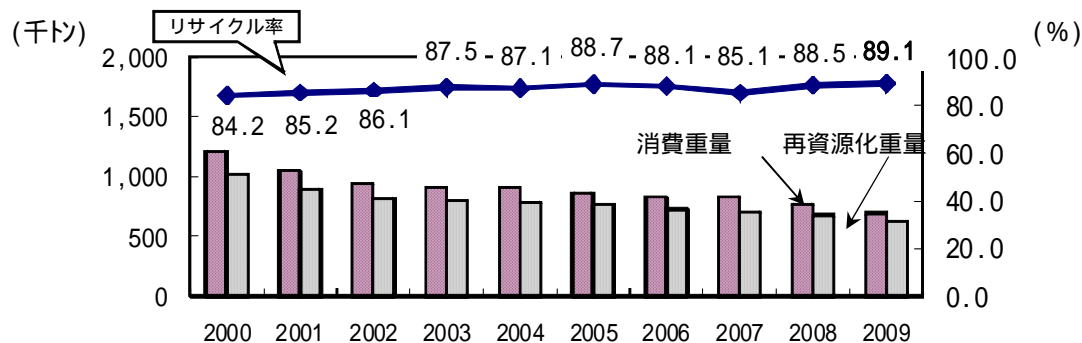
2. リサイクル目標とフォローアップ結果について

経済産業省・産業構造審議会ガイドライン目標「スチール缶リサイクル率85%以上」を**9年連続で達成**し、2008年度の88.5%から**0.6ポイント上昇**した。

スチール缶のリサイクル率が、高い水準を維持している要因は、

- 消費者・市町村の協力連携により、分別収集システムが普及していること
- 中間処理では、費用が安価な磁力機械選別ができること
- 鉄スクラップを取り扱う事業者が全国に点在していること（量の安定）
- 鉄鋼メーカーの協力連携により、受け入れ体制が整っていること
- スチール缶スクラップを使う市場（再商品化製品が多種多様）があること

などが挙げられます。



目標：1973年の当協会設立以来、消費者・自治体との連携に資する環境美化及び3R推進の取り組みを推進しています。2009年度の取り組みは以下のとおり

「協働型（実施団体・回収業者・自治体）集団回収調査」を継続実施。調査・研究の集大成である「集団回収マニュアル」の製作を進めています。

集団回収支援「スチール缶の集団回収を実施している団体への支援」を継続

環境学習支援「集団回収を通じて優れた環境学習に取り組む学校への支援」を継続

学校給食支援「WFP 国連世界食糧計画を通して、国内スチール缶リサイクル量に応じて世界の貧しい子ども達への食糧支援」を継続



集団回収調査



集団回収支援



環境学習支援



学校給食支援

ポスターコンクール「第4回スチール缶リサイクルポスターコンクール」を実施

キャンペーン活動「地域清掃・ポイ捨て散乱防止環境美化キャンペーン」を継続実施

（開始：1973年～、実施回数：479回、実施場所：341ヶ所）

壁新聞「スチール缶リサイクルの旅」を製作、全国の小中高校に配布

リサイクルデータ集「スチール缶リサイクル年次レポート2009」を発行、全国の市区へ配布



ポスターコンクール



キャンペーン活動



壁新聞



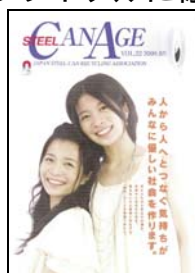
リサイクルデータ集

広報誌「STEEL CAN AGE」を発行、全国の市区・メディア等へ配布

環境展：全国の環境展及び会員企業の事業所等での環境イベント等へ出展もしくは協力

研究会「まち美化研究会」を開催

その他：容器包装リサイクルに係る八団体共同による各種事業推進を実施



広報誌



環境展



研究会